

令和2年度事業報告



社会福祉法人 双樹会

目 次

法人本部	2
事業所別実績報告	
特別養護老人ホーム 陽光の家	5
陽光の家 短期入所生活介護	14
陽光の家 通所介護事業所	15
陽光の家 居宅介護支援事業所	17
広島市城山・五日市観音地域包括支援センター	20

【取り巻く環境】

介護保険制度が創設されてからサービスの利用者は制度創設時と比べて約3倍になり、2025年には団塊の世代が75歳以上に、2040年には団塊ジュニア世代が65歳以上になります。政府は、「介護離職ゼロ」を目指して、仕事と介護を両立できる環境整備に力を入れています。

また、高齢化に伴い介護サービスを提供している事業所も増えていますが、介護関係職の有効求人倍率は、平成30年度で3.95倍を記録しており、今後も介護人材の不足は深刻化していくとみられています。

地域包括ケアシステムの構築を推進するためにも、「介護予防・健康づくりの推進」「保険者機能の強化」など、多彩な観点を踏まえながら見直しを進める必要があります。

令和元年度末には新型コロナウイルスの流行が始まり、感染対策や消耗品の確保、利用者及び職員の継続的な検査やワクチン接種の対応に追われた。

法人本部

1. 役員及び評議員

今年度は佐々木評議員が退任し、評議員選任・解任委員会にて審議され、瀬井評議員が選任された。

理事・監事及び評議員名簿

令和3年3月31日現在

理事長	中村 貴志				
理事	佐々木 昇	塚野 健	栗園 重弘	天田 美津子	松井 誠
監事	安本 洋子	大成 洋子			
評議員	川崎 正雄	石田 博文	津田 正明	沖元 道博	吉田 一男
	伊賀 浩子	中尾 光法	瀬井 武三		

2. 理事会・評議員会・監査の開催状況

【理事会】

回	日時	場所	議案	出席状況 上段:理事 下段:監事
1	R2.6.7 13:30～	陽光の家 ダイルーム	(1) 令和元年度事業報告並びに決算について (2) 評議員会の日時及び場所並びに議案について (3) ナースコール更新工事について (4) エアコン更新工事について (5) 勤怠・人事管理ソフト更新について	5/6 2/2

2	R2.3.20 13:30～	ナカムラ病院 研修室	(1) 令和2年度補正予算(案)について (2) 令和3年度事業計画(案)について (3) 令和3年度予算(案)について (4) 就業規則変更について (5) 照明器具 LED 化工事について	5/6 2/2
---	-------------------	---------------	--	------------

【評議員会】

回	日 時	場 所	議 案	出席状況
定 時	R2.6.21	書面決議	(1) 令和元年度計算書類及び財産目録の承認について	

【評議員選任・解任委員会】

回	日 時	場 所	議 案	出席状況
1	R2.5.14	陽光の家 会議室	(1) 評議員の選任について	3/3

3. 監査

- (1) 令和2年度社会福祉施設等指導監査について
書面による指導監査

文書指摘事項
・なし

4. 施設整備等

<施設修繕(大型)工事等>

時期	内容	場所	業者名	金額
6 月	厨房殺菌灯更新工事	厨房	アドアシステム	179,300 円
6 月	空調機更新工事(通所・厨房)	通所・厨房	リコージャパン(株)	5,170,000 円
6 月	勤怠・人事管理ソフト更新		リコージャパン(株)	2,154,900 円
8 月	空調機更新工事(いこい)	特養	中国システック(株)	319,000 円
10 月	2階照明伝送ユニット取替工事	特養	(株)エイコー	205,000 円
11 月	空調機更新工事	厨房	ホシザキ中国(株)	764,500 円
合計				8,792,700 円

<器具備品購入等>

時期	内容	場所	業者名	金額
9 月	シンク	厨房	(株)エイコー	165,000 円
9 月	スチームコンベクション	厨房	ホシザキ中国(株)	1,020,000 円

9月	テレビ	通所	(株)ヤマダ電機	101,200 円
10月	ベッド5台	特養	フランスベッド(株)	621,500 円
10月	電話機	包括	リコージャパン(株)	513,480 円
11月	大型オゾン発生器		フランスベッド(株)	990,000 円
11月	エアコン	厨房	ホンザキ中国	764,500 円
12月	中型オゾン発生器		深川医療器(株)	605,000 円
12月	温冷配膳車	厨房	ホンザキ中国(株)	1,078,000 円
1月	冷凍冷蔵庫	厨房	ホンザキ中国(株)	335,500 円
3月	照明スイッチ取替工事	特養	(株)エイコー	704,000 円
合計				6,898,180 円

5. 職員研修実施状況

(1) 施設内研修一覧

日付	研修名	講師・発表者	人数
	なし		

社外講師

日付	研修名	講師	人数
6月	リスクマネジメント研修「転倒」(レポート提出のみ)	外部講師: (有)コンサルティングブレイン 縫部 毅 氏	63
7/30	第1四半期事業目標進捗会議		6
9/24	考課者研修「公平公正な考課者レベルアップ5つのチェックポイント」		6
10/29	第2四半期事業目標進捗会議		5
2/25	「公平公正な人事考課を実現するためのマネジメント」		23

(2) 施設外研修受講一覧(抜粋)

時期	研修名	実施機関	人数	職種
7/16	廿日市市居宅介護支援事業所連絡会	廿日市市地域包括支援センター	1	居宅・ケアマネ
9/15	主任介護支援専門員研修会	佐伯区ブロック主任介護支援専門員部会	2	居宅・ケアマネ
9/18	安全運転管理者講習	広島県公安委員会	1	施設長
9/25	居宅サービス計画作成演習	広島市域居宅介護支援事業者協議会	1	居宅・ケアマネ
10/13	介護予防ケアマネジメント研修	広島市介護保険課	1	包括・ケアマネ
10/23	給食施設従事者講習会	広島市	1	特養・栄養士
10/27	新型コロナ応援派遣登録職員対象研修会	広島県老人福祉施設連盟	1	特養・介護職
10/26	福祉・介護新入職員合同研修会	福祉・介護人材確保等総合支援協議会	1	特養・介護職
10/28	高齢者虐待防止研修	広島市地域包括ケア推進課	1	特養・介護職
11/9	地域包括支援センター長研修会	広島市地域包括ケア推進課	1	包括・センター長

11/11	福祉現場のリーダー育成研修	福祉・介護人材確保等総合支援協議会	1	特養・介護職
11/20	主任介護支援専門員更新研修会	広島県介護支援専門員協会	2	居宅、包括・ケアマネ
12/15	広島市認定調査員現任研修	広島県介護支援専門員協会	1	特養・相談員
12/16	広島市認定調査員現任研修	広島県介護支援専門員協会	1	特養・介護職
12/23	新型コロナウイルス感染症対策研修	広島市老人福祉施設連盟	1	特養・介護職
12/24	同一労働同一賃金の対応策セミナー	働き方改革推進支援センター	1	事務職
1/16	高齢者虐待防止研修	広島県地域包括ケア推進センター	1	居宅・ケアマネ
1/20	高齢者虐待防止研修	広島県介護福祉会	1	居宅・ケアマネ
2/1	リスクマネジメント研修	広島市老人福祉施設連盟	1	特養・介護職
2/9	福祉・介護新入職員合同研修会	福祉・介護人材確保等総合支援協議会	1	特養・介護職
2/9	初級リスクマネジャー養成講座	社会福祉法人経営者協議会	1	特養・相談員
2/9	認知症介護実践者研修	広島市老人福祉施設連盟	1	特養・介護職
2/16	主任介護支援専門員研修会	佐伯区ブロック主任介護支援専門員部会	1	居宅・ケアマネ
2/17	排泄ケアオンラインセミナー	ユニ・チャーム	1	特養・介護職
3/1	佐伯区ブロック研修会	広島県介護支援専門員協会	1	居宅・ケアマネ
3/10	広島市介護サービス事業者集団指導研修	広島市介護保険課	1	居宅・ケアマネ
3/22	介護報酬改定に係る研修会	広島市老人福祉施設連盟	2	施設長、事務職
3/23	高齢者虐待防止研修	地域包括支援センター	1	居宅・ケアマネ

全体で 35 件、延べ 41 人が施設外研修へ参加した。うちオンラインは 13 件、14 人であった。

6. 資格取得支援制度利用状況

研修名	主催者	人数
介護支援専門員 更新研修Ⅱ	広島県介護支援専門員協会	1
広島県主任介護支援専門員更新研修	広島県介護支援専門員協会	2
合計	3 名	

合計 2 件 3 名 研修等費用＋交通費 112,430 円支出

7. 助成金活用状況

事業主体	事業名	支給決定金額
厚生労働省広島労働局	人材開発支援助成金	91,500 円
	両立支援等助成金	144,570 円
広島県	新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業	8,172,000 円
経済産業省	IT 導入補助金	966,500 円
合計		9,374,570 円

事業所別実績報告

1. 特別養護老人ホーム 陽光の家

I. 入所者の状況

(ア) 年間入所者の推移

2年度は、退所者 15 名・入所者 16 名、令和 3 年 3 月 31 日現在、在籍 48 名うち 1 名入院、47 名在所で終了した。退所者の内訳は、死亡退所 11 名（内 7 名は施設で看取り介護を行い、4 名は病院入院中に死亡）、長期入院による退所 4 名となり、退所者は前年度から 5 名増加した。延べ利用者数は、特養入所者 17,154 名、空床 75 名、合計 17,229 名で前年度より 517 名減少。稼働率は、94.4%で前年度 2.8% 減少、1 日当たり 47.2 名が利用したこととなった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
月末在籍数	48	46	49	50	47	48	49	48	48	47	48	46	
入所	3	1	4	1	0	1	1	0	2	0	2	1	16
退所	1	3	1	0	0	1	1	2	0	1	2	3	15
延べ利用者数	1,307	1,321	1,435	1,537	1,503	1,428	1,480	1,465	1,465	1,480	1,323	1,410	17,154
空床利用	14	31	19	0	0	4	0	0	0	0	3	4	75
合計	1,321	1,352	1,454	1,537	1,503	1,432	1,480	1,465	1,465	1,480	1,326	1,414	17,229
1日平均実績	44.0	43.6	48.5	49.6	48.5	47.7	47.7	48.8	47.3	47.7	47.4	45.6	47.2
前年度実績	1,443	1,468	1,472	1,524	1,531	1,495	1,545	1,485	1,478	1,467	1,398	1,440	17,746
対比	▲ 122	▲ 116	▲ 18	13	▲ 28	▲ 63	▲ 65	▲ 20	▲ 13	13	▲ 72	▲ 26	▲ 517

入所 15 名の退所日から次入所までの日数は延べ 465 日で 1 名当たり 29.1 日となり、元年度 17.7 日より 11.4 日長くなった。また、2 年度に医療機関に入院した者は 24 名（内 7 名は入院中退所）で、延べ入院日数は 690 日であった。

(イ) 要介護度別利用者人数（1 日平均）

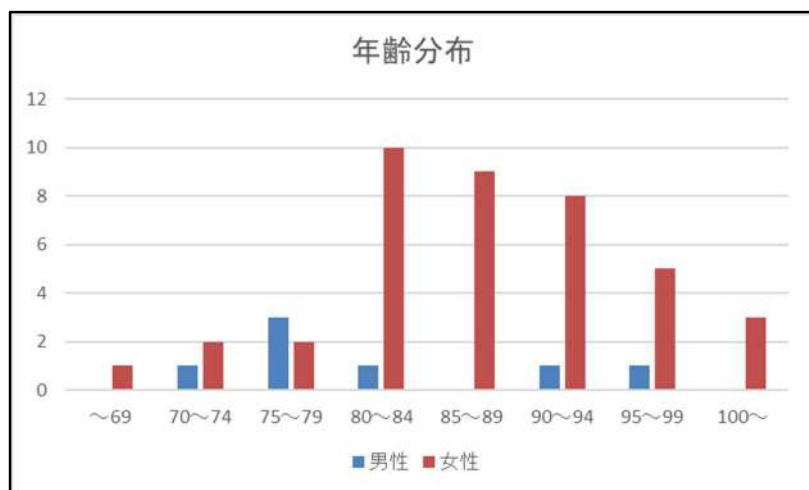
令和 3 年 3 月末現在、46 名の入所者のうち 39 名が要介護 4 以上。要介護 3 未満の特例入所者が 2 名在籍する。年間平均介護度は、4.10 で前年より 0.1 高くなった。

	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	平均介護度
2年度	0.7	1.9	5.3	21.4	17.7	47.0	4.10
前年度	1.0	2.5	7.3	21.5	16.2	48.5	4.00
対比	▲ 0.3	▲ 0.6	▲ 2.0	▲ 0.1	1.5	▲ 1.5	0.1

(ウ) 入所者年齢別及び平均年齢（令和 3 年 3 月末日現在）

男性と女性の入所人数は、男性 7 名・女性 40 名。平均年齢は、88 歳 7 ヶ月から 87 歳 7 ヶ月へ、最高年齢者は、106 歳から 107 歳となった。

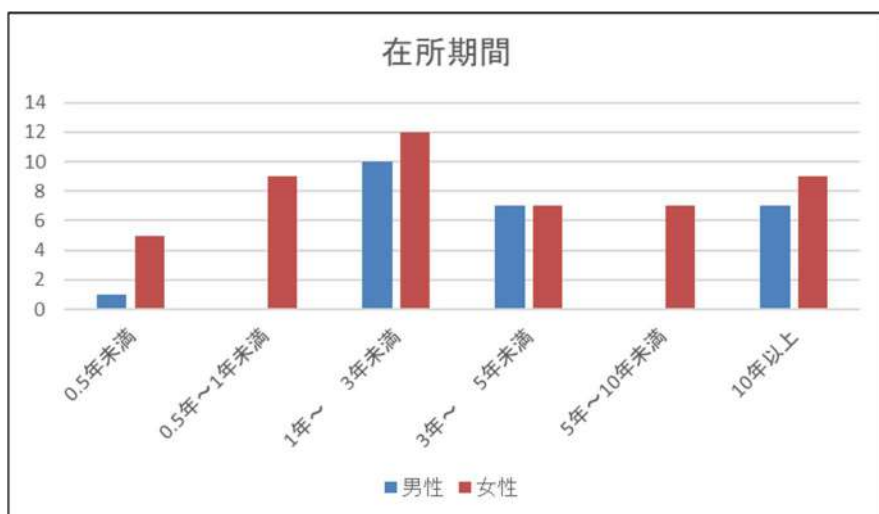
歳	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～	合計	平均
男性	0	1	3	1	0	1	1	0	7	83歳6か月
女性	1	2	2	10	9	8	5	3	40	88歳5か月
合計	1	3	5	11	9	9	6	3	47	87歳7か月
最高年齢	107歳	最少年齢		61歳						



(工) 入所者在所期間 (令和3年3月末日現在)

年度末在籍者の平均在所期間は、3年7ヶ月であった。最長在所者は男性13年2ヶ月・女性12年2ヶ月となった。

期間	0.5年未満	0.5年～1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年以上	合計	平均
男性	1	0	10	7	0	7	25	5年10か月
女性	5	9	12	7	7	9	49	3年3か月
合計	6	9	22	14	7	16	74	3年7か月
最長在所		13年2か月		最短在所		2日		



(才) 保険者別人数 (令和3年3月末日現在)

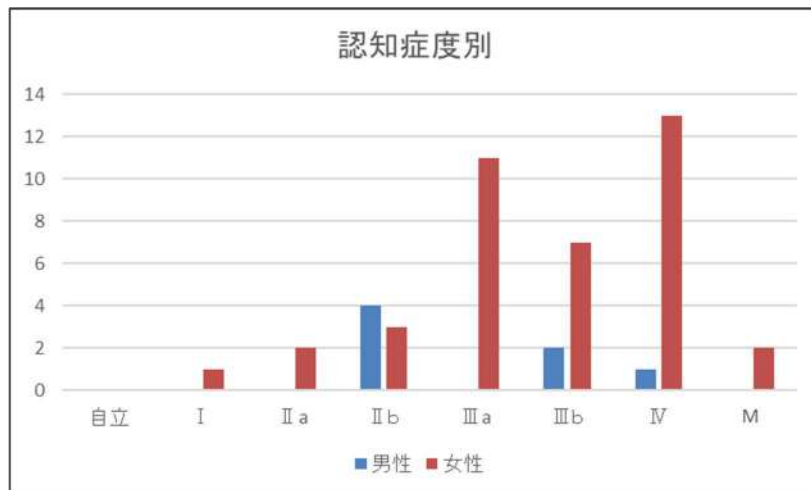
前年同日と比べ佐伯区と西・中区は1名それぞれ減少、大竹市、田布施町がそれぞれ1名増加した。佐伯区の占有率は66.0%。

保険者	佐伯区	西・中区	東・南区	安佐南区	安佐北区	廿日市	大竹市	大崎上島	田布施町	世羅町	合計
男性	6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	7
女性	25	5	2	1	1	2	1	1	1	1	40
合計	31	6	2	1	1	2	1	1	1	1	47

(力) 認知症度別人数 (令和3年3月末日現在)

下記の表のとおり、47名の入所者のうち36名が認知症度Ⅲ以上。前年比Ⅲ以上3名の減少となった。

認知症度	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	合計
男性	0	0	0	4	0	2	1	0	7
女性	0	1	2	3	11	7	13	2	39
合計	0	1	2	7	11	9	14	2	46



(キ) 入所申込者の状況

令和3年3月末日の申込者数は240名。令和2年度1年間の申込者数は54名、取下げが73名であった。申込者の介護度分布は下表のとおり。

	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計
令和2年3月末日	21	36	85	68	70	280
令和2年度申込数	1	0	20	22	11	54
令和2年度取下げ数	1	2	20	26	24	73
令和3年3月末日	18	24	67	75	56	240

Ⅱ. 職員の状況

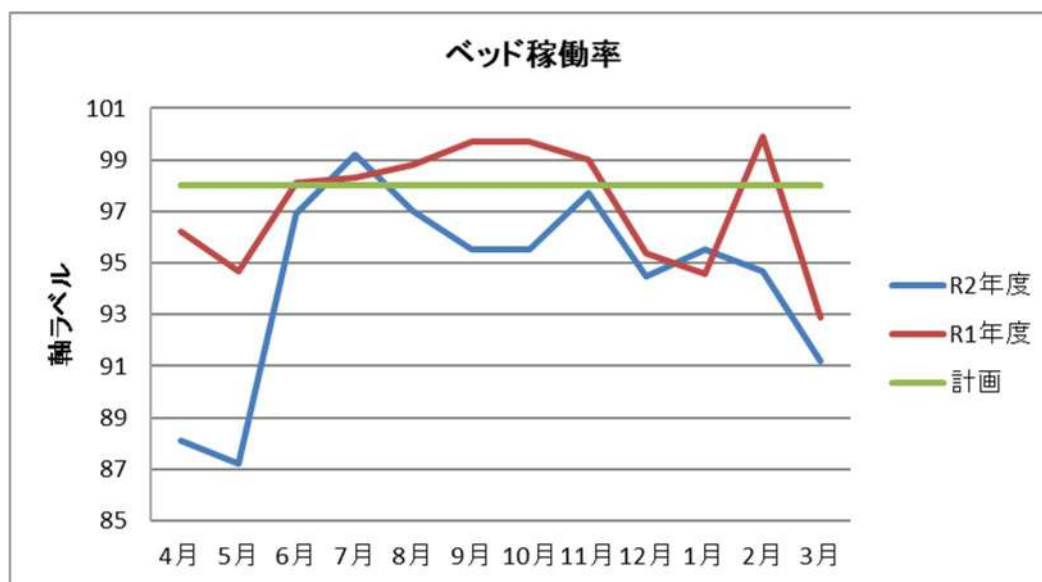
[]内の人数は部署間異動

特養・短期入所	令和2年度期首(4月)			期中		期末(3月)			配置基準
職種	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算	
施設長	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
医師	1	1	0.1	0	0	1	1	0.1	1
生活相談員	2	0	1.2	0	0	2	0	1.2	1
介護支援専門員	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0	1
機能訓練指導員	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
看護職	5	1	4.7	0	0	5	1	4.3	2
内 正看護師	2	1	2.7	0	0	2	1	2.3	
記 准看護師	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0	介護・看護
介護職	26	5	23.9	0	0	26	5	23.4	17
内 介護福祉士	23	4	21.3	0	0	23	4	20.9	
記 その他	3	1	2.6	0	0	3	1	2.5	
管理栄養士	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
当直専門員	3	3	2.5	0	0	3	3	2.4	
事務員	3	0	3.0	0	0	3	0	3.0	
合計	45	10	40.4	0	0	45	10	39.4	

Ⅲ. 令和2年度事業計画の実施状況について

● ベッド稼働率 98%・・・実績 94.4%

退所(看取り)の利用者が多く、入所の調整が追いつかず計画の稼働率を下回る結果となった。令和元年度末からの新型コロナウイルスの流行によりスムーズな入所ができなかった。インフルエンザとノロウイルスに関しては、2年度は1名も罹患することなく終えられた。また、新型コロナウイルスにも罹患せずに終えた。



① 腰痛予防（抱えない介護の実践）

- ・介護機器・福祉用具の活用実践
- ・全職員の日常的に抱えない介護の実践

< 報告事項 >

リフト:特養 7 名、短期 2 名 ・スライディングボード:特養 0 名、短期 0 名使用中。

リフト・スライディングボードは全介護職員が使用できるので、対象者がいれば、対応可能である。

② 個別ケアの実践

- ・ I C F ストレngths 視点でのケアプラン作成
- ・カンファレンスの定例開催
認知症ケア、口腔ケア、看取りケア、医療的ケアの実践・機能訓練計画の実践
- ・排泄管理・栄養改善管理・褥瘡管理評価の実践
- ・専門性の向上のための各委員会の事例検討の実施

< 報告事項 >

環境アセスメントは月 4 名を目標に実施し、1 年間に 50 名実施することができた。ベッド位置の状況、車いす清掃、座位保持困難な利用者に関しては、福祉用具によるポジショニング、車いすの選定、変更等、介護・看護・機能訓練指導員が共同で実施を行った。

ICF は毎月 2 名新規入所者を中心に実施。目標達成し、この情報を職員間で情報共有した。

カンファレンスは「照会」という形式で令和 2 年度は実施した。

各種マニュアルの再編成・見直しを行い、パソコンのネットワークで共有フォルダを活用し周知徹底を行った。

[排泄委員会]

排泄マニュアルの見直しや排泄ケア加算について検討を行う。

委員会: 6/12、7/21、8/20、9/18、11/24、2/10 実施

[入浴委員会]

入浴マニュアルの見直し、入浴形態の精査、入浴表や人数調整等を行う。

[口腔委員会]

月一回のナカムラ歯科衛生士による勉強会に参加し、昼前の口腔ケア体操を実施し取り組みを行っている。

[看取り委員会]

看取り同意書を記入した時点で、ナカムラ HP の塚野医院長宛に紹介状を送る。陽光独自の「看取りのパンフレット」を作成し、入所時と看取り時にご家族へ説明を行う。令和 3 年度以降も継続して実施していく。

③ 人材の育成・定着

- ・アセッサーによるレベル認定を実施する。

< 報告事項 >

目標 1 名、評価終了、自己チェック・評価票入力終了。令和 3 年度は目標 1 名を行う予定である。

④ 地域貢献

- ・介護教室開催 介護相談開催
- ・ボランティア受入、育成

< 報告事項 >

令和 2 年度広島市受託家族介護者教室 主催

開催日	テーマ	講師	参加人数
R2.10.18	“自分らしく生きるための終活のすすめ“ エンディングノートを書いてみよう	松井 施設長	14 人
R2.11.15	“自分らしく生きるための終活のすすめ“ 身元保証～成年後見人を考えてみよう	松井 施設長	10 人

【ボランティア定期】

活動	部署	活動日時	名称
書道クラブ	通所	(中止)	伊賀 浩子 様
話し相手・歌など	特養	(中止)	観西ボランティア
外出支援	特養	(中止)	観西ボランティア 計 7 回 14 名

【ボランティア演芸(スポット)】

来園日	団体等名称	内容
(中止)	実り会	歌・踊り
(中止)	琴伝流大正琴	琴演奏
(中止)	そよ風	歌・踊り

【職場体験】

期間	受入れ元	参加人数
(なし)		

● 実習生の受け入れ

実習依頼元		実習期間	人数	備考
1	広島福祉専門学校	R2.7.20～8.8	1	介護福祉科 2 年
		R2.9.10～9.17	2	介護福祉科 1 年
		R2.9.28～10.24	2	介護福祉科 2 年
		R2.11.16～11.28	1	介護福祉科 1 年

2	トリニティカレッジ広島医療福祉専門学校	R2.9.7～10.9	2	介護福祉学科2年
3	IGL 医療福祉専門学校	R2.10.12～10.24	1	介護福祉学科1年
		R2.11.9～11.21	2	介護福祉学科2年
合計		3 団体	11 人	

Ⅳ. 食事（栄養・調理）実施状況

栄養ケアプランは、カンファレンス等で情報共有しその都度食事への反映を行い、利用者本人や家族への説明を行った。これにより、利用者それぞれの状態に合わせた食事の提供と栄養状態の改善を図ることができた。また、食を通してコミュニケーションを図るように季節感のある食事の提供を行った。

（ア）食事形態（令和3年3月31日 現在）

食事形態	常食	キザミ	極キザミ	ペースト	経管栄養
食事数	5	16	10	8	5

（イ）年間療養食加算取得状況

	貧血食	糖尿病食	心臓病食	腎臓病食	脂質異常
実人数	1	12	0	3	0
延べ日数	365	2,983	0	588	0

（ウ）栄養年報（令和3年3月31日 現在）

区分／栄養量	エネルギー kcal	たんぱく質 g	脂質 g	カルシウム mg	鉄 mg	ビタミンA μg	ビタミンB1 mg
栄養所要量	1,547	63.8	43	657	6.2	673	0.83
栄養摂取量	1,541	58.8	56.9	423	5.3	649	0.6

栄養所要量(計画) 栄養摂取量(実績)

（エ）行事食等

内容		実施日	内容		実施日
お花見	お花見弁当	4/3, 6	端午の節句	こいのぼりゼリー	5/5
母の日	マフィン	5/10	父の日	ビール風ゼリー	6/21
七夕	冷やしソーメン	7/7	土用の丑の日	うなぎの蒲焼	7/21
夏祭り	夏祭り弁当	7/26	敬老会	松花堂弁当	9/13
敬老の日	抹茶ゼリー	9/22	十五夜	みたらし団子風	10/1
忘年会	松花堂弁当	12/13	クリスマス会	クリスマスケーキ	12/20
大晦日	年越しそば	12/31	新年	おせち料理	1/1
七草	七草がゆ	1/7	節分	巻きずし	2/2
バレンタイン	チョコレートデザート	2/14	ひな祭り	ちらし寿司	3/3
お花見	お花見弁当	3/29, 31			

V. 防災訓練等

(ア) 自衛消防訓練実施状況

実施日	訓練内容	参加者				備考
		入所者	通所	職員	計	
7.31	総合訓練(夜間想定)	17	0	6	23	消防職員・2名立会
11.26	総合訓練(夜間想定)	19	0	8	27	〃

(イ) 非常食備蓄状況 (令和3年3月31日現在)

種類	水	主食			副食	
		ご飯	粥	ミキサー粥	レトルト食品	缶詰
数量	20×258本	100食	50食	50食	140食	240食

職員・協力者用別途備蓄 90食

VI. 広島市受託事業

広島市受託事業は、利用者なし。

受託業務名	実績金額	実利用者	延べ利用者
広島市重度身体障害者入浴サービス事業	0	0	0
広島市生活指導短期宿泊事業	0	0	0

VII. クレーム対応・・・2件

① 令和2年11月19日(木) 受付 96歳 女性。

ご家族より、車椅子のタイヤに十分に空気が入っていないことと利用者様の爪の汚れについてご指摘を頂く、謝罪を行う。

② 令和2年12月17日(木) 受付 81歳 女性。

利用者様より、介護中に手術を受けた視力について、職員の言葉かけにつらい思いをしたと話される。手術の目的と効果について再度ご本人に説明し、状態を職員間で共有する。

VIII. 医療機関受診事故・・・3件

① 令和2年7月5日(日) 8:20頃発生。要介護4 97歳 男性

廊下にて「ドンッ」と音がしたため駆け付けると、車椅子から転落している本人発見。救急搬送。異常なし。

令和2年7月9日 広島市報告

② 令和2年11月30日(月) 14:30頃発生。要介護5 97歳 女性

入浴脱衣時に左足首から膝下にかけて青く腫れ、部位に熱感がある状態を発見。湿布貼付にて様子観察。12/3時点で改善されないため受診。右足脛骨骨折(ヒビ)。

令和2年12月5日 広島市報告

③ 令和2年12月7日(月) 11:00頃 要介護2 92歳 女性

ユニットホールにて椅子から立ちふらついているところを発見。転倒しそうになり支えようとするも間に合わず転倒したため受診。右大腿骨転子部骨折。

令和2年12月8日 広島市報告

2. 陽光の家 短期入所生活介護事業所

I. 利用者の状況

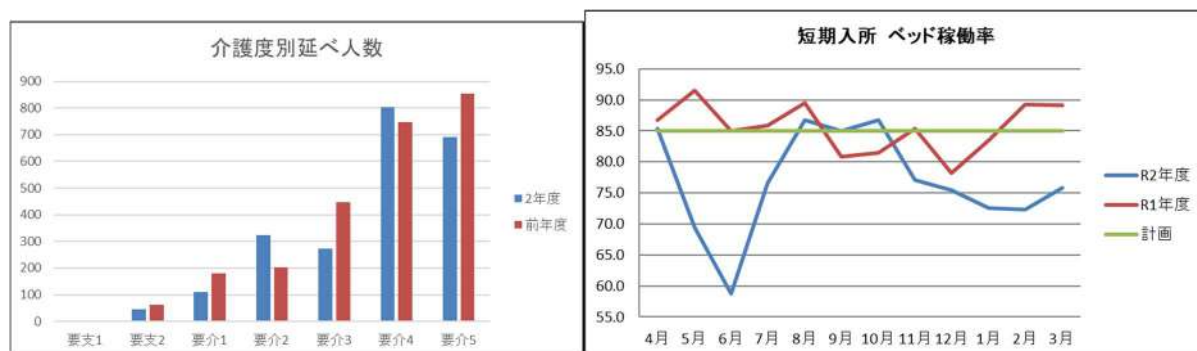
2年度は、月平均実利用者は24名、前年対比3.3名減。延べ利用者数の前年対比は248名減少。

介護度	要支1	要支2	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	合計	平均		
									介護度	実利用者	稼働率
2年度	0	46	109	323	272	804	690	2,244	3.7	24	77.4
前年度	0	62	179	203	447	747	854	2,492	3.8	27.3	85.2
対比	0	▲16	▲70	120	▲175	57	▲164	▲248	▲0.1	▲3.3	▲7.8

II. 令和2年度事業計画の実施状況について

● ベッド稼働率 85%・・・実績 77.4%

ベッド稼働率は前年85.2%から77.4%へ7.8%減少となった。



・在宅介護の継続支援（定期的・緊急時の利用対応）

< 報告事項 >

緊急時の利用時、担当ケアマネジャーと調整を図りスムーズな空きベッドを活用に努めた。また、家族の体調不良などで、利用延期など、ベッド調整行い対応を行った。在宅支援を行う為に、担当者会議に積極的に参加した。

III. クレーム対応[令和2年度苦情報告]・・・0件

IV. 医療機関受診事故・・・0件

3. 陽光の家 通所介護事業所

I. 利用者の状況

(ア) 1月当たり平均実利用者数

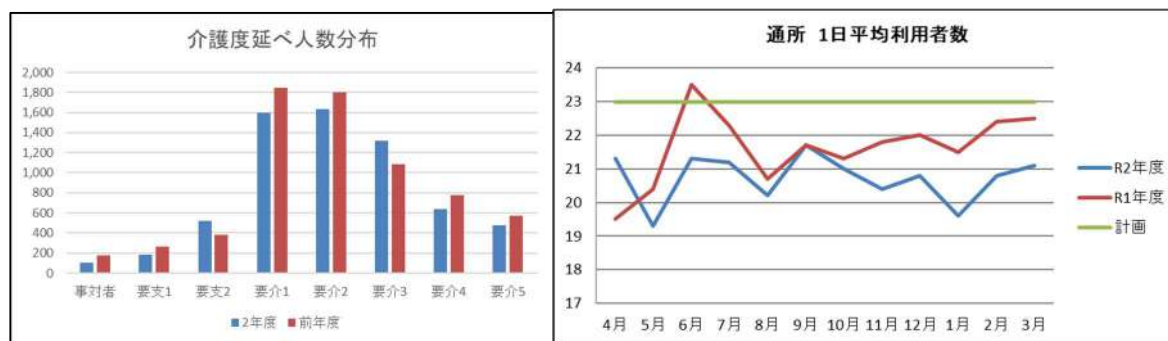
令和2年度の1月当りの平均利用者数は、合計4.4名の減少となった。

	介護	総合事業	合計
2年度	52.8	12.0	64.8
前年度	54.9	14.3	69.2
対比	▲ 2.1	▲ 2.3	▲ 4.4

(イ) 介護度別延べ人数対比

延べ人数は、前年度から442名減、1日当りの利用人数は20.7名で前年比1名減少となった。介護度別では、要支援者等が19名減少し、要介護者が423名減少した。

介護度	事対者	要支1	要支2	小計	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	小計	合計	1日平均利用者
2年度	100	181	519	800	1,595	1,637	1,318	636	479	5,665	6,465	20.7
前年度	172	267	380	819	1,849	1,803	1,085	777	574	6,088	6,907	21.6
対比	▲ 72	▲ 86	139	▲ 19	▲ 254	▲ 166	233	▲ 141	▲ 95	▲ 423	▲ 442	▲ 1



II. 職員の状況

[]内の人数は部署間異動

通所介護	令和2年度期首(4月)			期中		期末(3月)			配置基準
職種	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算	
生活相談員	3	0	2.0	0	1[1]	2	0	1.5	1
機能訓練指導員	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	1
看護職	3	1	2.8	0	0	3	1	2.8	
内 正看護師	2	1	1.8	0	0	2	1	1.8	
内 准看護師	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	
介護職	7	0	5.0	0	0	7	0	5.5	5
内 介護福祉士	6	0	4.0	0	0	6	0	4.5	
内 その他	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	
管理栄養士	1	0	1.0	0	0	1	0	1.0	
合計	15	1	11.8	0	0	14	1	11.8	

III. 令和2年度事業計画の実施状況について

(1) 通所介護事業所(介護予防)[定員35名] 1日平均利用者数 20.7名

*介護給付利用者 22人 (日曜日および元日以外稼働)

総合事業利用者 10人 (月～金曜日稼働)

実利用者 介護 54 人 総合事業 11 人

新規利用者 17 人獲得 廃止 24 人

<報告事項>

1 日平均 23 名目標に対し、年間 20.7 名となる。廃止(長期入院)が年間 24 名ありました。総合事業 15 名の計画に対し、最終月で 11 名となった。実利用者は、介護 65 人の目標に対し、平均 52.8 人で 12.2 人マイナス。新規利用者 36 人目標に対して 17 人獲得。

① 生活機能向上に向けた心身機能、活動、参加の実践(機能訓練加算Ⅰ・Ⅱ)

- ・通所介護計画書・機能訓練計画書に沿ったサービス提供の徹底
- ・「活動・参加」を視点とした個別機能訓練Ⅱの実施
- ・心身機能維持評価の実践(ADL 維持等加算)
- ・栄養改善加算の取組み

<報告事項>

機能訓練加算Ⅰ・Ⅱの両加算 80%以上を目標にし、76%未達成となった。

② 腰痛予防(ノーリフトケアの実践)

- ・介護機器の活用

<報告事項>

4 種類の福祉用具を活用、理学療法士指導のもと 3 人実施。

③ 家族介護の負担軽減への支援(中重度者ケア体制加算・認知症加算)

- ・時間延長の実施と夕食サービスの提供
- ・中重度の対象者であっても社会性の維持を図り在宅生活の継続のケアを計画的に実施するプログラム
- ・認知症の症状の進行の緩和のケアを計画的に実施するプログラムの作成

<報告事項>

中重度者ケア体制加算(要介護3以上) 50%の目標→48%未達成。

認知症加算(認知症度Ⅲ以上)30%の目標→41%達成 4 名の認知症実践者研修修了者が評価・記録を実施

時間延長と夕食サービスは以下の表のとおり。

所要時間	3-4 時間	4-5 時間	5-6 時間	6-7 時間	7-8 時間	8-9 時間	合計	夕食サービス
2 年度	0	58	2,736	2,034	834	0	5,662	0
	0%	1.02%	48.33%	35.92%	14.73%	0%		
前年度	1	108	2,748	1,999	920	317	6,093	303
	0.02%	1.77%	45.1%	32.81%	15.1%	5.2%		

夕食サービス利用者は、前年度 4 人から 0 人へ減少

④ 計画的な研修計画の実施

<報告事項>

部署内の勉強会の実施内容

テーマ	実施日	参加人数
排泄介助・食事介助の介助動作確認	6/26	9
栄養マネジメント	7/17	9
ノーリフトケア	8/21	7
高齢者虐待・身体拘束	9/15	7
感染予防	10/15	9
認知症ケア	11/20	9
リスクマネジメント	2/12	7

業務マニュアルの見直しと活用

3大介護:入浴・食事・排泄のマニュアル改訂実施

IV. クレーム対応[令和2年度苦情報告]・・・1件

① 令和3年2月20日(土) 8時30頃 受付

お迎え時に利用者様の娘様より、下腿部(脛)のうっ血があったと連絡票に記載はあったが原因が記載されていないと指摘を受ける。

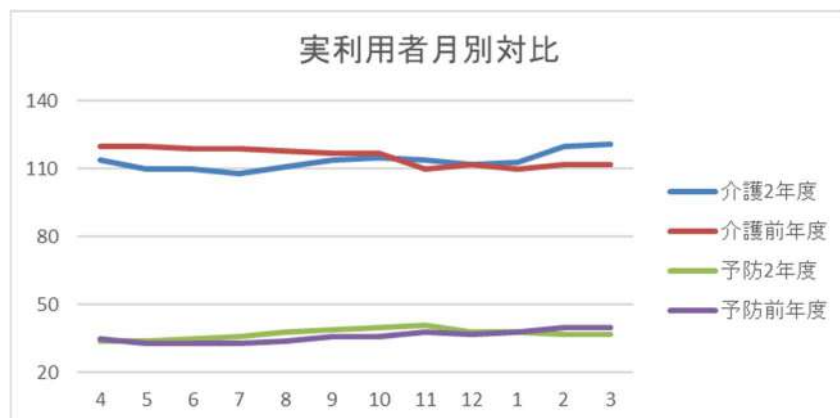
4. 陽光の家 居宅介護支援事業所

I. 利用者の状況

(ア) 実利用者数 (介護)(介護予防 各地域包括支援センターより受託)

令和2年度の1月当たりの件数は、113.5件。前年度より月平均2件減少。介護予防給付は、月平均37.3件。前年より1.2件減少している。

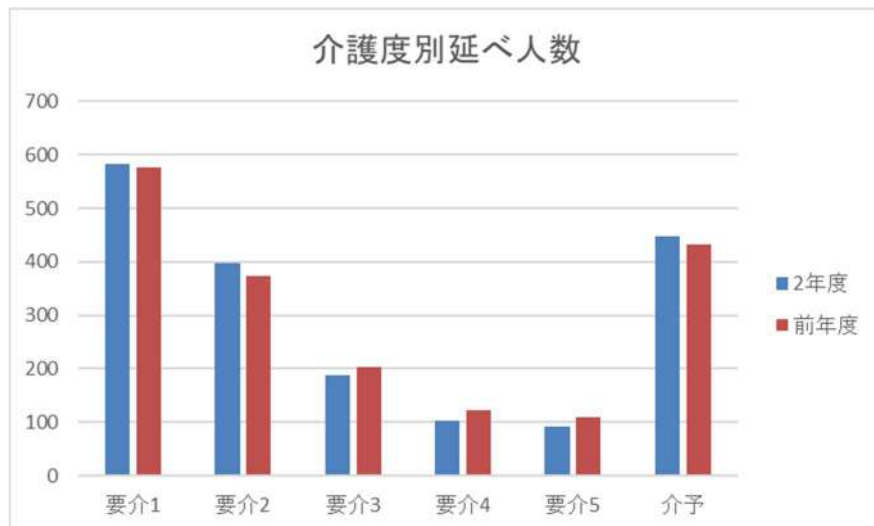
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
介護2年度	114	110	110	108	111	114	115	114	112	113	120	121	113.5
介護前年度	120	120	119	119	118	117	117	110	112	110	112	112	115.5
予防2年度	34	34	35	36	38	39	40	41	38	38	37	37	37.3
予防前年度	35	33	33	33	34	36	36	38	37	38	40	40	36.1



(イ) 介護度別延べ人数

前年対比で要介護は全体で 24 名減少、介護予防等が 14 名増加

介護度	要介1	要介2	要介3	要介4	要介5	介予	合計	1か月平均
2年度	584	397	187	103	91	447	1,809	150.8
%	32.3	21.9	10.3	5.7	5.0	24.7	100.0	
前年度	577	373	203	123	110	433	1,887	151.6
%	31.7	20.5	11.2	6.8	6.0	23.8	100	
対比	7	24	-16	-20	-19	14	-78	-0.8



II. 職員の状況

[]内の人数は部署間異動

居宅介護支援	令和2年度期首(4月)			期中		期末(3月)		
職種	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算
介護支援専門員	3	0	3.0	0	0	3	0	3.0
合計	3	0	3	0	0	3	0	3

III. 令和2年度事業計画の実施状況について

① 住み慣れた地域で継続的な生活を支援

- ・要介護度の維持・改善を目指した自立支援型ケアマネジメント

<報告事項>

【介護認定更新時の要介護の維持改善】

介護保険更新結果

維持	改善	悪化	合計
10	4	21	35

悪化が 60%で、半数を上回った。

【自立支援型のケアマネジメントの作成】

計画作成

介護	予防(総合事業含む)
121	37

ICF、ポジティブプラン、インフォーマルサービスの利用を考えプラン作成に努めた。

【定期的なカンファレンスの開催】

事業所内 週1回 53 回実施 [内容] 困難事例の検討 業務連絡、毎月業績報告 情報共有
施設内 5 回 施設内事例報告

【24時間対応相談における対応】

・24時間連絡体制の確保 24 時間対応 8 件

② 公正中立・質の高いケアマネジメント

【介護支援専門員ごとの研修計画の策定】

< 報告事項 >

施設外研修 29 回 主任介護支援専門員更新研修 事例検討会 佐伯区自主勉強会など

③ 総合的な医療機関等との連携促進

・地域包括支援センターからのケース紹介

【要支援認定・要介護認定者の円滑な受け入れ】

・中重度者・支援困難ケースの積極的な介入、対応

【支援困難者へのケアマネジメント】

・医療機関からの退院支援

【病院地域連携室との連携、退院者の在宅への円滑な支援】

【サービス担当者会議での主治医の参加調整】

< 報告事項 >

初回加算 31 入院時連携加算ⅠⅡ 36 退院・退所 3

入院時には、入院先へ連絡情報提供を行い、情報の共有、スムーズな在宅復帰に努めた。

・地域包括支援センターなどからの困難事例の受け入れ

本人・家族 65 件 包括 32 件 病院 7 件 その他 10 件 苦情 2 件

【サービス担当者会議での主治医の参加調整】

担当者会議開催68回のうち、医療職・看護師・MSW・PT・OT・ST・薬剤師18名。担当者会議に医師の参加は少ないが、個別のリハビリ会議 20 回、個別の医療職 50 名との面会などで対応。コロナウイルス感染予防のため担当者会議開催回数が減少した。

Ⅳ. クレーム対応[令和2年度苦情報告]・・・2件

① 申出日：令和2年5月25日 9：30頃 申出者 利用者の家族

[内容] デイサービスの迎えが来ないので、連絡すると利用予定になっていなかった。

[対応] 謝罪を行い、デイサービスの事業所にも謝罪を行う。

② 申出日：令和2年3月10日 15：00頃 申出者 佐伯区役所

[内容] 匿名の方より担当ケアマネの対応が機械的で相談しづらく、訪問時に身構えるようになった、と佐伯区役所に相談があった。

6. 広島市城山・五日市観音地域包括支援センター

I. 事業実施状況

事業実施場所：広島市佐伯区千同一丁目 30-6 高東ビル1階

圏域：広島市立城山中学校及び同五日市観音中学校 校区内

圏域高齢者人口：9,462 人 高齢化率：29.3% （令和3年3月現在）

		八幡	観音西	観音	合計
高齢者人口(人)	R3.3	3,707	2,457	3,298	9,462
	R2.3	3,690	2,676	3,027	9,393
	対比	+17	+219	+271	+69
高齢者率(%)	R3.3	31.9	31.4	25.7	29.3
	R2.3	31.8	31.3	24.8	29.0
	対比	+0.1	+0.1	+0.9	+0.3

【広島市受託事業一覧】

受託業務名	2 年度	元年度	対比
広島市地域包括支援センター運營業務(包括的支援事業)	41,872,000	41,818,000	54,000
広島市地域介護予防拠点整備促進事業	5,576,000	5,566,000	10,000
合計	47,448,000	47,384,000	64,000

区分		実施結果	
		開催回数・件数等	内 容
包 括 的 支 援 事 業	総合相談	・地域ケア会議 開催回数 36回 ・地域団体の会議 参加回数 16回	各学区新規総合相談の内訳から「整形疾患」、「内科疾患」が2割の相談になっている。 五日市観音地区において、「五観ひまわりネット」設立を支援するために地域ケア会議を開催した。 個別の処遇検討会議を行うことで担当ケアマネ、地域住民が情報共有し問題解決をした。
	権利擁護	・高齢者虐待対応 対応件数 12件 ・権利擁護啓発研修会 開催回数 4 回	高齢者虐待対応件数 12件(内6件は警察通報件数) 地域住民対象の権利擁護研修会 3回行い。圏域内サービス事業所、居宅介護支援事業所(ケアマネ)1回行った。
	包括的・継続的 ケアマネジメント支援	・ケアマネ連絡会・研修会 開催回数 7 回	「処遇検討会・個別地域ケア会議」11回 「ケアマネ自主勉強会」2回 「主任介護支援専門員ネットワーク研修会」3 回 「佐伯区ブロック研修会」2回

区分		実施結果	
		開催回数・件数等	内 容
	介護予防 ケアマネジメント	・センター職員担当件数 総数 3,692 件 1人あたり平均 20.7件	平均センター職員直営155件、委託152.2件(直営実施率58.5%)
	その他	・介護予防教室開催回数 口腔機能向上教室 0回 低栄養予防教室 8回 認知症予防教室 3回 運動機能向上教室 4回	公民館、集会所と地域住民の集まりやすい場所を選定し、「介護予防」の視点からセンター独自で介護予防教室をおこない、介護予防の重要性を住民に対して啓発を行った。 年15回開催実施。
重点事業	地域介護予防拠点整備促進事業	・介護予防拠点 立ち上げ箇所数 20 か所	地域介護予防拠点数が20か所拠点の立ち上げができています。 参加者数 681名。(圏域高齢者人口0.7%) 観西地区百歳体操世話人会交流会
	高齢者地域支え合い事業	・事業実施か所数 2 か所 ・ネットワーク組織 立ち上げか所数 0か所	観西地区は、年1回のモニタリングの実施、年2回の役員会を行った。 観音地区は組織再編し、臨時総会を開催し運営支援を行った。 八幡地区は見守り活動のシステム化ができるように地域団体への説明働きかけを行った。
	在宅医療・介護連携推進事業	・情報交換会・意見交換会 開催回数 1 回	医師、歯科医師、薬剤師、地域連携室、介護支援専門員、サービス事業所等との連携を図り、佐伯区生活期・回復期連携推進会議を1回行い、ACPの理解に向けた研修会を開催した。 看取りに関する情報交換会、Death カンファレンスについては中止とした。
	認知症地域支援体制づくり	・認知症サポーター養成講座 開催回数 1 回	感染症予防の配慮から、各地区で開催予定の講座を中止した。 五日市観音中学校においても認知症サポーター養成講座を開催することができ、認知症に関する知識の普及啓発に努めた。 認知症初期集中支援チームへの依頼をし、チーム会議にも参加する事が出来き、対応方法、支援体制について検討した。

区分		実施結果	
		開催回数・件数等	内 容
	介護予防ケアマネジメントの更なる強化	・地域ケアマネジメント会議 参加回数 5 回	感染症予防の配慮から、開催予定の半数を開催する事が出来た。個別のアセスメント・ケアプランに係る質をより一層強化し、「自立支援」に向けての助言・指導ができるようになる。
	その他	・ケアマネ事例検討会 開催回数 11回	感染症予防の配慮から、開催予定の半数を開催する事が出来、対象者の自立を目指した支援が行えるよう、居宅の介護支援専門員のマネジメント能力・アセスメント能力がより向上するように、圏域居宅介護支援事業所のケアマネジャーと伴に事例検討会を開催した。

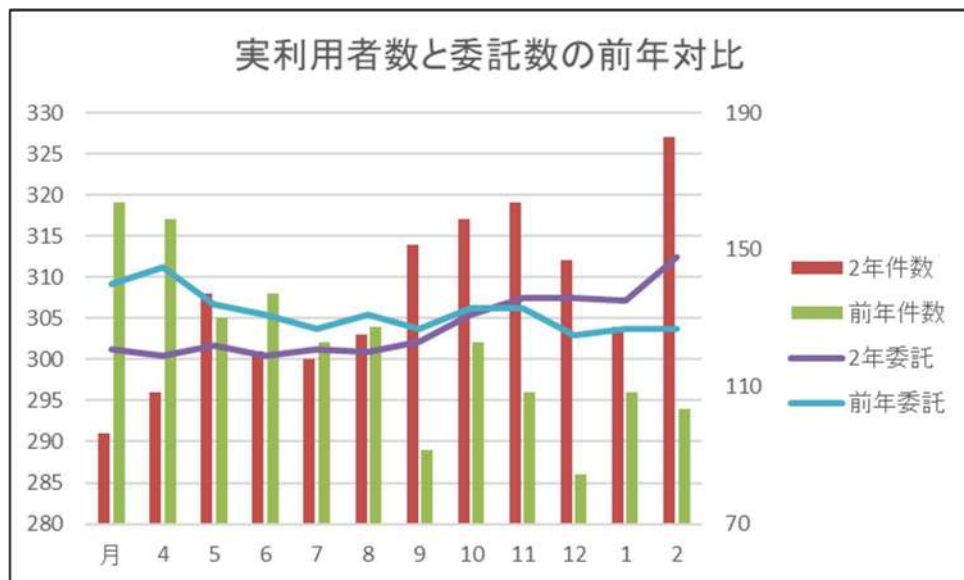
(1) 介護予防支援業務

① 利用者の状況

(ア) 利用者数月別推移と外部委託件数

2年度は、1月当たりの平均利用件数で、前年を6.2件上回った。外部委託件数は、平均4.1件減少しており、委託比率は41.4%で、前年比2.3%減。

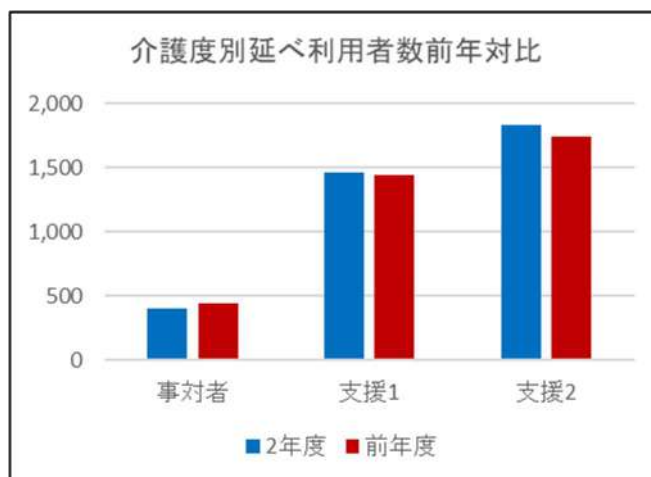
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
2年件数	291	296	308	301	300	303	314	317	319	312	304	327	307.7
2年委託	121	119	122	119	121	120	123	131	136	136	135	148	127.6
2年%	41.6	40.2	39.6	39.5	40.3	39.6	39.2	41.3	42.6	43.6	44.4	45.3	41.4
前年件数	319	317	305	308	302	304	289	302	296	286	296	294	301.5
前年委託	140	145	134	131	127	131	127	133	133	125	127	127	131.7
前年%	43.9	45.7	43.9	42.5	42.1	43.1	43.9	44.0	44.9	43.7	42.9	43.2	43.7



(イ) 介護度別利用者延べ利用者数前年対比

介護度別では、事業対象者が 38 人減、要支援 1 が 19 人増、要支援 2 が 93 人増。

介護度	事対者	支援1	支援2	合計
2年度	400	1,460	1,832	3,692
%	10.8	39.6	49.6	100
前年度	438	1,441	1,739	3,618
%	12.1	39.8	48.1	100
対比	-38	19	93	74



Ⅱ. 職員の状況

[]内の人数は部署間異動

地域包括	令和2年度期首(4月)			期中		期末(3月)		
職種	人数	内非常勤	常勤換算	採用[異動]	退職[異動]	人数	内非常勤	常勤換算
保健師	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0
社会福祉士	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0
主任介護支援専門員	3	0	3.0	0	0	3	0	3.0
介護支援専門員	2	0	2.0	0	0	2	0	2.0
合計	9	0	9	0	0	9	0	9

Ⅲ. 令和2年度事業計画の実施状況について

① 介護予防の促進

「介護予防教室」公民館、集会所と地域住民の集まりやすい場所を選定し、「介護予防」の視点からセンター独自で介護予防教室を行い、介護予防の重要性を住民に対して啓発を行った。

教室	回数
口腔機能向上教室	0
低栄養予防教室	8
運動機能向上教室	3
認知症予防教室	4
合計	15

「介護予防拠点整備事業(いきいき百歳体操)」

地域拠点整備促進事業の事業箇所 20ヶ所の拠点運営を行っている。体力測定16ヶ所おこなった(実利用者数681名参加)。

・観西地区百歳体操世話人会交流会 ・保健事業と介護予防一体的事業の教室

② 介護予防マネジメントの質の更なる強化

「地域ケアマネジメント会議」 参加回数 5回

地域ケアマネジメント会議に参加する事により、個別のアセスメント・ケアプランに係る質をより一層強化し、「自立支援」に向けての助言・指導ができるようになる。

「圏域内 ケアマネ事例検討会を開催」 参加回数 5回

対象者の自立を目指した支援が行えるよう、居宅の介護支援専門員のマネジメント能力・アセスメント能力がより向上するように、「自立支援」に向けたマネジメントができるよう、毎月、圏域居宅介護支援事業所のケアマネジャーとともに事例検討会を開催した。

③ 高齢者地域支え合い事業の推進

- ・観西地区は、年1回のモニタリングの実施、年2回の役員会を行った。
- ・観音地区は組織再編、再検討を行い、臨時総会を開催し運営支援を行った。
- ・八幡地区は見守り活動のシステム化ができるように地域団体への説明働きかけを行った。

④ 在宅医療・介護連携の推進

「生活期・回復期連携推進会議 年2回開催」

「生活期・回復期連携推進会議」 年2回

日	テーマ	参加者
10/7	在宅医・かかりつけ医によるACP(人生会議)について	6人
	支援者がまず考えよう アドバンス・ケア・プランニング	(延期)

「Death カンファレンス研修会」 1回開催

日	テーマ	参加者
中止	看取りにおける多職種連携会議(模擬デスカンファレンス) ～家族の力を高め、在宅での看取りが出来た事例～	

「かかりつけ医紹介事業」

- ・かかりつけ医が見つからない相談者に対し6件紹介した。

⑤ 認知症地域支援体制づくりの推進

テーマ	学区その他	日	参加人数
認知症サポーター養成講座	八幡		
	五日市観音		
	観音西(五観中)	9/25	186人
	観音西		
消費者被害予防研修	八幡	2/25	24人
	五日市観音	11/19	18人
	観音西	11/6	16人

高齢者虐待防止研修	ケアマネ・サービス事業所 (オンライン web 研修会)	3/23	22人
-----------	---------------------------------	------	-----

⑥ その他

- (ア) 地域実態把握シートへのデータ更新 (ICT活用) を随時行うとともに、引き続き、地域資源マップ、介護予防マップ等による情報の活用を進める。「地域社会資源マップ」や介護予防に係るデータを見える化し圏域住民に情報提供を行っている。(iPad による介護予防拠点会場の可視化)
- (イ) 地域包括支援センターの広報誌発行し、地域課題の提案、発信をする。(8月、2月 発行)

IV. クレーム対応・・・令和 2 年度は、苦情報告、対応は 1 件。

① 申出日: 令和2年12月27日(日) 申出者: 見守り登録申し出者

[内容] 支え合い事業(あじさいネット)登録について、本人(登録者)、知人が来所。「あじさいネット」担当者と話がしたい(登録について)。

担当者不在である事を伝えたが、担当者以外のセンター職員では登録が困難と勝手に判断され憤慨された。

[対応] 担当者以外にも、対応(登録説明)が出来るようようにセンター職員間での情報共有、登録方法の学びを後日行った。